



おびにしわくわく通信

NO.156

2023.01.10

文責: 荒木

新年あけましておめでとうございます

いよいよ令和5年の幕があげました。先が見えない不透明感のある中、新しい年がやってきましたが、今自分にできることをしっかりやっていくことが最善の打開策に繋がると考えています。さて、右は帯山西小学校に福有れと、帯西レンジャーの七福神を描いてみました。始業式でも子供たちに話しましたが、この船は、大海原を航海している「帯西丸」です。帯西キングが「4つの心」という方向性を示し、帯西レンジャーが、帆を張って船を進めているのです。帯西レンジャーたちは、それぞれが考えを持ち、自分の目標に向かって進んでいるのですが、一番大事なことはこの船はモーターボートではなく、先が読みづらい自然の波や風を受けながら進んでいるということです。ときには帯西レンジャーが力を合わせて手漕ぎしながら進んでいかなければなりません。それぞれが自分の意思をしっかりとをもって進むべき方向に進んでいるということです。



これは、置き換えると今の帯山西小学校を表しているのです。先が読めない社会という大海原を一人一人の職員・子供たちが力を合わせて、「4つの心」という進むべき姿をしっかりと自覚し、自分の目標・めあてを定めて行動していく姿と重なります。一人の大きな力で進むのではなく、合意形成・意思決定をしながら学校創りを進めていく帯山西小学校なのです。

さて、「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。これは「新しく迎える一年の目標や計画は、その年の初めの元旦に立てるべきである。」という意味ですが、その言葉の由来は、毛利元就由來說と中国由來說があるようです。

今回は毛利説の説明は省きますが、中国由来の説は、「一年の計は元旦にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」と書かれ、わかりやすく言うと「健康で、まじめに働き、計画を実行していけば、人生、成功するよ。」ということになります。

今年も健康第一に、目標やめあてを大切にしたい学校運営ができればと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。